

学校法人山本学園 学校評価委員会による評価結果(令和3年度)

令和4年度提出依頼分

< 評価対象校：専門学校山形V.カレッジ >

評価項目

1	目標設定(自己点検項目)について
2	目標の達成状況について
3	取り組みの状況について
4	学校・園の自己評価(取り組みに対する検証結果)について
5	次年度に向けての改善の方策について
6	学校・園の良さ(PRポイント)と認められる点について
7	学校(園)運営の改善(改善点及び方策)について
8	その他

No	評価(校・園の自己評価の内容についてのご意見、ご感想)
1	① 自己点検・自己評価シートは、有か無の選択。大半が有、一部無が有ります。内容が良いかは私は判断しませんが、無の点は昨年より多い感じがします。 ② 大変細かく、且つ、具体的に設定されています。 ③ 具体的な数字で表した目標をいくつか設けて欲しい(例えば入学者数〇名以上、退学者〇名以下、第一希望先就職者数〇%以上、職員の外部研修参加率〇%以上 等々)。Vカレに限ったことではないが、何をもって目標をクリアできたか、できなかったかが、外の者からはよくわからない。 ④ 適切である。
2	① この評価シートでは、達成しているのかの判断は出来ない。目標が何なのか明確ではない。 ② いずれの項目も年度内の達成あるいは取組んでいる状況にあるようです。 ③ カリキュラム編成において情勢に即した対応がなされており結果も出している。 ④ 様々な大会での入賞、成績表彰など学習の成果が出ている。
3	① 色々な企画を実施し、全国での選ばれた専門学校の土俵は出来ていると思うが、その内容に生徒のレベルがマッチしているのか、先生のレベルが追いついているのか疑問点です。 ② すばらしい取り組みの様子が伺えます。 ③ 適切である。
4	① 地域社会での評価と、学校内部の評価に大きな差が有ると感じます。地域社会での評価は、内部で考えるほど高くは無いと思います。その違いを先生方が感じているのか。 ② 大変良く分析されているようです。 ③ 適切である。
5	① コロナ下で留学生が入国できず生徒数も減少しました。この事は留学生を入れている点では、コロナだからでは無く、色々な面で毎年起きる問題です。留学生で安定生徒数確保するのではなく、一般の生徒で確保することを第一に考え先生方が努力する必要が有ると考えます。 やはり学生数の確保には学園全体で取り組むべきだと思います。他の専門学校との違いを明確にしないと、学生数は増えません。(例えば、幼稚園→高校→専門学校 など)UNIXマシンやTronOSを搭載した産業マシンなど社会に直結する高度な環境を作り高校生に見てもらったり、学外活動で使ってもらったりするなど、体験してもらうこともあっていいのでは？とにかく様々なアイデアを学園全体で出し合っていくことが必要と思います。 ③ 退学者が5名という結果を受けてカウンセリングなどの体制を強化すべきか検討を要す。 ④ 国や県からの補助がある社会人職業訓練講座だけでなく、法的に開催することが可能なのであれば、一般向けの科目別スキルアップ講座の開講を検討して欲しい。 ⑤ 引き続きオープンキャンパスメニューとして体験入学、学校説明会、特別講座、分野別の説明会等、入学を検討するイベントを実施してほしい。
6	① Vカレッジとして、何が特徴なのか。どの部分が他より先を行っているのか。劣っているのか。劣っている点を確認し、改善することが必要だと思います。 ② 留学生の受け入れと彼らの県内就職率の高さ。公務員科の 100パーセント合格。 ③ ①経済的、精神的にも留学生に対する相談体制の整備や就職支援対策等これからも充実させてほしい。 ②特色がわかりにくい
7	① 卒業生の状況を把握しているかという項目。毎年「無」となっています。何故に改善できないのでしょうか。コロナとは関係無く直ぐにでも出来ることだと思います。これが出来ない事は、先生と生徒の関係が凄く遠いと考えられます。このような関係では、全て改善できないでしょう。 ② 老朽化した校舎の整備。 ③ 職員が学生の個別支援を丁寧に行っていることが伝わる。その良さを活かし、時代に合わせた教育、人材養成に取り組みつつ募集につなげていってほしい。
8	① 特にIT関係を得意とする学科に生徒が多いです。IT系の学科を有する学園で、何故に学園HP、FB、Twitter、Instagram等のSNSの活用が出来ないのでしょうか。先生方が担当科目でBlogを更新するとかできないのでしょうか。学園としてのPR方法、Mediaを活用することが一番では有りません。これからはVカレッジ、惺山高校が得意とするIT系、SNSの時代だと思います。もっと先生方が活用すべきではと思います。 ② 入学者の確保が一番の問題であることに変わり無く、それにはここですしか学べなく、身につけることができない教科というものが必要。また、地域に根ざした教育があつてこそ地方の専門学校の存在意義があると思うので、「ここで学びたい」と思わせられる特色を如何に早く見つけ取り入れられるかが、これから大事な問題だと思う。